

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果報告と今後の取組について

今年4月22日に3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果が8月末に届きました。本校ではその結果を基に、教科に関するもの、生活習慣や学習習慣に関するものなど、様々な観点から分析し、課題を確認したところです。良かったところはさらに伸ばし、努力すべきところは改善策を明確にし、今後の取組に活かしていきたいと考えています。

本年度の調査結果と今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

なお、本調査は、教科に関する調査(主として「知識」に関する問題・・・国語A・数学A、主として「活用」に関する問題・・・国語B・数学B)と生活習慣や学習環境に関する質問紙調査です。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1、教科に関する調査結果の概要

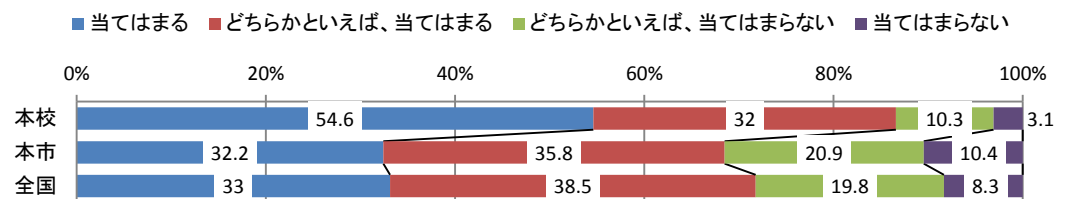
① 学力調査結果と分析

	全国平均との比較	学力調査の分析(本校生徒の傾向・特徴等)
国語A	全国平均正答率を下回っている	・話すこと・聞くことに関しては基礎的な力が身につけている。 伝統的な言語文化と国語の特質の正答率が低い。 ・無解答率は昨年と比べ、大幅に減少した。 ・話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす問題の正答率が高い。
国語B	全国平均正答率を下回っている	・記述式の問題を答えることに課題がある。 ・伝えたい事実や事柄を明確に伝えるように書く問題の正答率が低い。 ・無解答率は昨年と比べ、大幅に減少した。 ・文章の見方について自分の考えを持つ問題の正答率が高い。
数学A	全国平均正答率を下回っている	・関数に関する領域に関しては、基礎的な力が身につけている。 ・数学的な技能に関する問題の正答率が低い。 ・無解答率は昨年と比べ、大幅に減少した。 ・樹形図を用いて確率を求める問題の正答率が高い。
数学B	全国平均正答率を下回っている	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力に課題がある。 ・与えられた条件から角度お求める問題の正答率が高い。 ・無解答率は昨年と比べ、大幅に減少した。 ・与えられたグラフから事象に即して解釈する問題の正答率が低い。

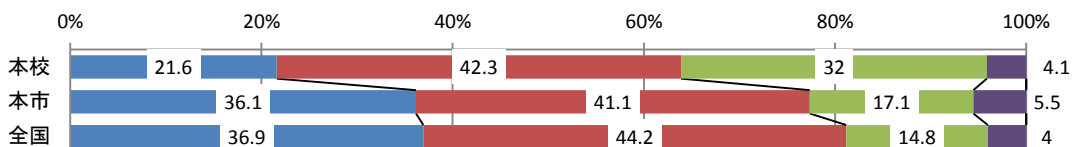
② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

質問番号
質問事項

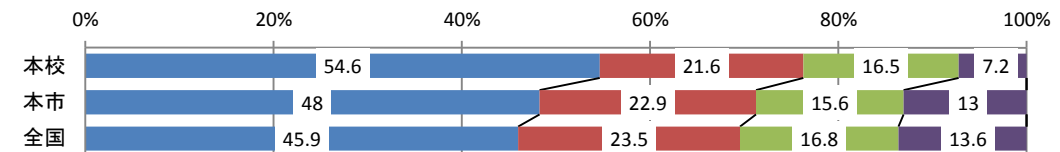
64
数学の授業の内容はよく分かりますか



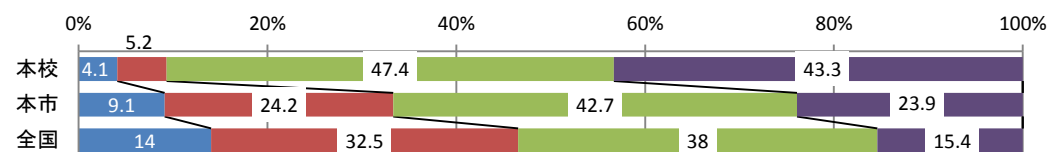
42
1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



53
読書は好きですか



41
1、2年生のときに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか

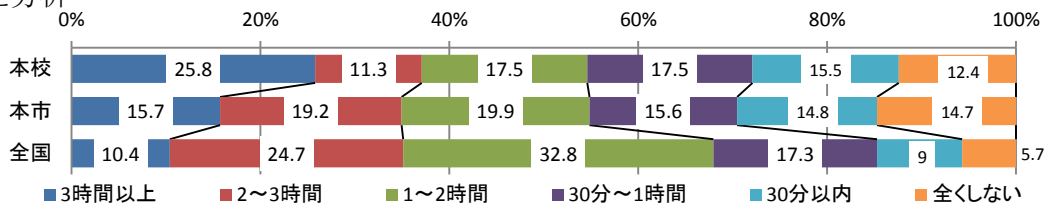


- ・自分の考えを発表したり、グループでの調べ学習を行ったりする授業が、全国平均と比較してもその差が著しく大きい。今後は発表する機会や調べ学習の機会を増やす授業を行っていく。
- ・数学の授業の内容がよくわかる生徒の割合が全国平均を大きく上回っており、わかる授業に向けての教師の意識改革が進んでいると考えられる。
- ・朝読書の取組が定着し、読書が好きな生徒割合が3年続けて全国平均を上回っている。今後は、朝読書の取組を発展させ、調べ学習や自分の考えを発表する機会を増やす方向へと繋げていく。
- ・学力調査の結果から、無解答率が昨年と比較して著しく低くなり、学習意欲の向上が見られる。

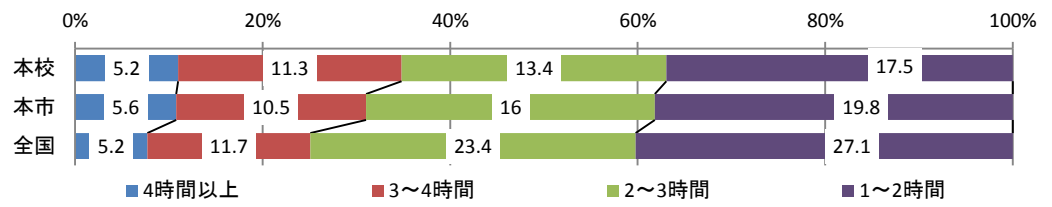
2、家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



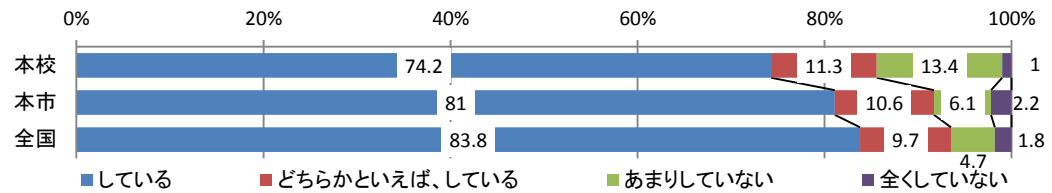
15
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



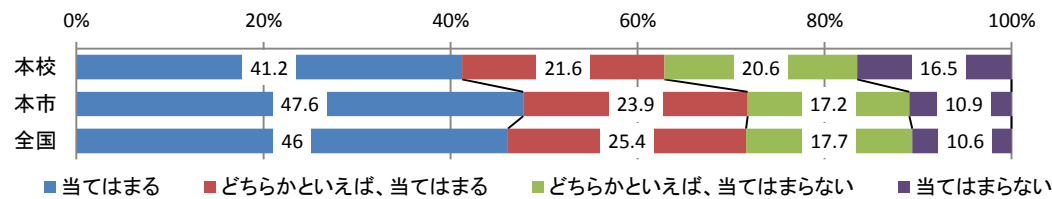
・家庭学習の時間を全国平均と比較したとき、3時間以上する生徒の割合は15.4ポイント上回っているが、全くしない生徒の割合が6.7ポイント上回っており、二極化が進んでいる。また、家庭学習の時間が1時間未満の生徒が45.4パーセント、家庭で授業の予習を全くしない生徒が46.4パーセントを占めており、家庭学習習慣の定着を図ることが課題となっている。

② 生活習慣等に関する調査結果と分析

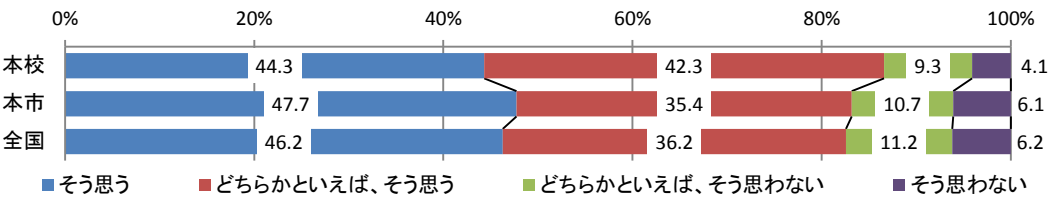
1
朝食を毎日食べていますか



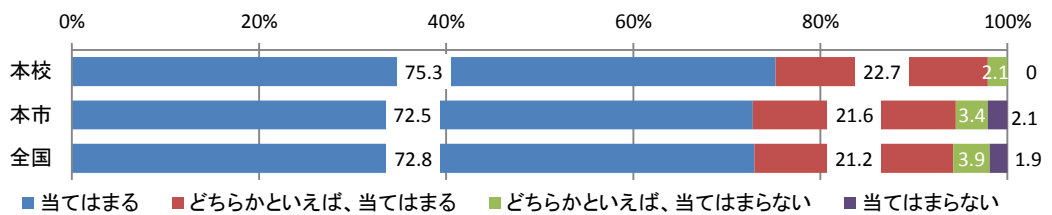
10
将来の夢や目標を持っていますか



25
学校に行くのは楽しいと思いますか



38
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



・朝食を全く食べない、あまり食べない生徒が14.4パーセントを占めており、この3年間で最大の数値となっている。
 ・全国、本市と比較しても、学校に行くのが楽しいと感じている生徒の割合が大きい。
 ・将来の夢や目標をもっている生徒が全国と比べて少ない。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。
 ・人の役に立ちたいと思う割合が高く、その思いを将来の夢や目標に繋げる取組を実施する。

3、調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 学力向上に関する係会議・学年会議・職員会議の定期的な実施
- 学力向上を推進するための指導計画の作成・実施・見直し・改善を行う。
- 学力向上のための特設時間の実施
 - ・定期考査前に、委員会活動によって予想問題を作成し、意欲の向上を図る。
 - ・定期考査終了後に、間違えた問題を攻略する(定期考査完全攻略)を実施する。
 - ・国語・数学の過去問題、アシストシート、単元別プリント等を入れておく棚や引き出しを職員室前に設置する。
- 全国学力調査及びCRTの過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・長期休業日に宿題として実施し、休み明けに点検し、課題を確認する。
- WEB問題の活用
 - ・WEB問題を授業の導入で使い、基礎基本の徹底を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化
 - ・冬休み・春休みの宿題に、アシストシートや過去問題を活用する。
 - ・生活ノートや定期考査前の計画表を通じての家庭学習の支援を行う。
 - ・家庭学習マイスター賞への応募を行う。
- 家庭学習主体とした学習を支援する学力向上の取組
 - ・数学、英語、理科の家庭学習プリントを職員室前廊下の棚に準備する。
 - ・生活ノートを活用し、家庭学習を支援する。
- 「家庭学習の手引き」の作成
- 学校ホームページ、学校・学年・学級だよりを通して、家庭学習の重要性を保護者や地域住民に啓発する取組
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・家庭教育学級や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
- 保護者会や学校通信等で朝食をしっかり習慣づけるよう啓発する。